

全国学力・学習状況調査及び県調査の結果公表にあたって

武雄市教育委員会

武雄市は平成24年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のHPで公表してきました。

今年度も保護者・地域住民のみなさまに学校の現状と取り組み、武雄市の取り組みが分かってもらえるように公表を行います。

今回は該当学年別に昨年度(一昨年度)との変化も公表いたします。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、発達途上の子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組めます。

保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査の結果をお知らせすることにより、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回学習状況と意識調査(家庭や地域での学習や生活状況)を合わせて公表することで連携体制がより強くなることを願っています。

中学校3年生、小学校6年生は全国学習状況調査、それ以外は佐賀県学習状況調査の結果を公表します。

全国学力・学習状況調査は国語、算数(数学)共にA問題、B問題という2種類のテストで成り立っています。おおむねA問題は基本的な問題。B問題は思考力を要するような問題です。さらに今年度からは、新たに理科のテストも加わっております。

これまでも各学校は学力調査の結果を受け指導方法等の改善に取り組んで参りました。

各学校のHPに学校ごとの分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、あわせてご覧ください。

全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて 【武雄市小学校】

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数			理科
	5年時	6年時		5年時	6年時		6年時
		A	B		A	B	
H23 入学	62.6			65.2			
現5年	(1.00)			(1.00)			
H22 入学	71.4	71.9	66.9	60.4	75.7	44.7	61.2
現6年	(1.06)	(1.02)	(1.04)	(1.01)	(1.01)	(1.02)	(1.00)
H27 正答率の全国比		(1.03)	(1.02)		(1.01)	(0.99)	(1.01)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H27正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・国語A・B算数A、理科に関しては、県・全国と同等、あるいはわずかに上回る結果であった。
- ・算数Bは、全国を0.01ポイント下回るが、県平均より0.02ポイント上回っていることから、県全体の課題とも言えるが、昨年度の結果と比較すると差が縮まった。これは、スマイル学習の継続により、問題解決能力の向上、発展学習の充実によるものだといえる。しかし、活用力・思考力を向上させる手立てとして、各学校の対策を明確に打ち出していく必要がある。
- ・県も施策として昨年度力を入れてきた「無回答率の減少」であるが、本市の結果も設問により多少差はあるが、改善の傾向である。
- ・意識調査の「今、住んでいる地域の行事に参加している」に関して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童が、県・全国平均を大きく上回り、コミュニティースクールの成果が現れている。

2 改善に向けた具体的な取組

- ・西部型授業スタイルの徹底を図り、めあての設定からまとめ・振り返りまでを確実に行う授業の確立をめざす。
- ・「集団の力」を伸ばす取り組みとしては、スマイル学習を中心にした協働的な学習の時間を多く取り入れ、コミュニケーション能力や問題解決能力の向上を目指す。26年度から実践している算数・理科に関しては、動画コンテンツの内容を再度検討し、児童の学力向上の一助を担うものになっているか見直し・修正を行う。新たに今年度2学期から国語でも「学習用語」に特化した動画コンテンツを活用しながら、児童に国語科における確かな力を身に付けていく。
- ・「個の力」を伸ばす取り組みとしては、書くことへの抵抗をなくし、無回答率を更に減少させるために「書くこと」の指導に力を入れていく。
- ・活用力を問う問題に対応していく力を付けるために、「思考力・判断力・表現力」を培うための指導法を各小学校で研修していくように働きかけていく。

全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて 【武雄市中学校】

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語				数学				理科
	1年時	2年時	3年時		1年時	2年時	3年時		3年時
			A	B			A	B	
H27入学	73.8				68.6				
現1年	(1.01)				(0.96)				
H26入学	70.0	66.8			68.4	54.2			
現2年	(1.00)	(0.99)			(0.97)	(0.95)			
H25入学	68.3	61.1	72.7	61.9	70.5	45.9	60.3	37.9	47.4
現3年	(1.00)	(1.01)	(0.98)	(0.98)	(0.97)	(0.97)	(0.98)	(0.98)	(0.96)
H27 正答率の全国比			(0.96)	(0.94)			(0.94)	(0.91)	(0.89)

◎ 1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「H27 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・ 3年生の全国調査の結果においては、全区分で全国平均・県平均を下回っている。このうち、国語B、数学A、数学Bは、県平均との差が前回より縮小し、改善されてきている。理科においては、県・全国平均を下回った。
- ・ 国語A・B両方から、「書く能力」を問う問題に課題が見られる。生徒質問紙からも「400字詰め原稿用紙2～3まいの感想文や説明文を書くことは難しい」と感じている生徒が県・全国平均を大きく上回っている。
- ・ 各教科、全項目に共通して記述式問題での正答率が低い。
- ・ テレビゲームやスマートフォンなどの時間は、県・全国より少ないが、一方で授業の予習や復習にかける時間が少ないなど自分で計画を立てて学習するという生活習慣・時間の使い方に課題がある。
- ・ 「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたい」などの意識の高い生徒が多く、県や全国の結果を大きく上回っている。

2 改善に向けた具体的な取組

- ・西部型授業スタイルの徹底を図り、めあての設定からまとめ・振り返りまでを確実に行う授業の確立をめざす。
- ・各教科ごとの特質を生かした言語活動の充実に、より一層力を入れていくことにより、「個の力」から「集団の力」へとつなげていく。
- ・アクティブラーニングの研修を深め、協働的な学びの場を作り出していく。
- ・家庭と連携した家庭学習の習慣化（学習時間の確実な確保など）を図る。
- ・生徒会が主体となった学校作りを行う。
- ・生徒指導の面で、各関係機関との連携を密にして個別に対応できるようにし、生徒が落ち着いて学習に取り組める環境を作る。